

SDGs を通して世界の課題について考える

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校教諭
眞所 佳代

1. はじめに

社会科の目的は、社会の課題に対し、社会の一員としての自覚を持ち、主体的に解決に取り組もうとする意識や力を育てることである。では、社会の課題とは何か？ 人それぞれ課題と感ずることはさまざまであるが、今世界全体で取り組む課題としては、SDGs(持続可能な開発目標)を挙げることができるだろう。

しかしながらSDGsの知名度はまだまだ低く、2017年7月には外務省がPR動画を制作するなど、その広報に努めている。

2030年には社会の主演となる生徒たちがSDGsを知り、そのために何ができるかを考える機会を設けることは、社会貢献のみならず、生徒自身の将来を考えることにつながるだろう。そこで、SDGsを通して世界の課題について考える授業を提案したい。

2. SDGsの授業(国際経済の単元・2時間扱い)

①導入：(SDGsの前身としての)MDGsの背景を示す

南北問題解決のために、国際社会ではさまざまな取り組みが行われてきた。しかし、途上国に対する単なる援助では、支援国への依存を招いたり、支配階級が利益を独占して国民生活向上に繋がらなかったりと、問題も多く指摘されてきた。そのため、途上国の自立を促し、苦しんでいる人々に直接アプローチできるような解決策が模索されてきた。2000年の国連ミレニアム・サミットにおいて、国連ミレニアム宣言が採択され、この宣言に基づいて定められた目標がMDGs(ミレニアム開発目標)である。

②展開1：MDGsの目標と達成状況を考える

まず、MDGsの八つの目標のロゴとその詳細についてスライド¹⁾で示し、MDGsの目標について「具体的な数値目標が定められている」ということに気づかせる。さらに、2015年までという達成期限があることも伝える。

次に、MDGsの期限であった2015年の達成状況を示し²⁾、この結果についてペアやグループで話し合わせる。ここでは、主に以下の点について気づかせたい。

- ・具体的な目標を定めたため、具体的な成果が出た。
- ・大幅に改善されたものもあるが、完全ではない。
- ・目標を達成できていないものもある。

※MDGsの達成状況については、スライドで示すとともにプリントで配布し、話し合いをしやすいとする。

③展開2：MDGs後の目標について話し合う

2015年までは、MDGsという目標に向かって世界が協力して取り組んで来た。そして、その後の取り組みについても国連で話し合われた。

そこで、世界の代表として国連に参加しているつもりで、世界に残されている課題を挙げ、それに対する目標を考えさせる。班ごとにまとまり、図1の要領で話し合う(※班ごとに付箋、模造紙、ペンを配布する)。

どのような課題と目標を挙げますか？

- ①付箋1枚につき、課題を1つ書く。(できるだけたくさん挙げる)
- ②1人1枚ずつ、自分が挙げた課題をみんなに説明しながら、用紙にはる。その際、似たような課題はまとめておき、最後にグループ化する。また、そのグループにはタイトルをつける。※下図の場合「環境」「貧困」
- ③ワークシートにグループのタイトルを記入し、それに対する目標を考えて書く。

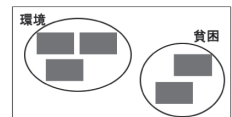


図1 グループワークの要領

④まとめ：課題と目標について発表する

班ごとに出た課題、話し合いの経過、設定した目標について発表する。

最後に、実際に採択されたSDGsの17の目標を示し、各グループで考えた目標と比較し、共通点や異なっていた点とその理由について考える。

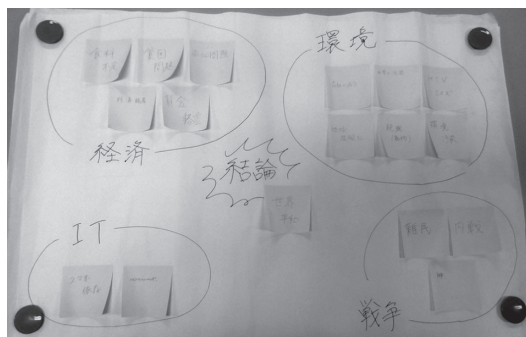


図2 生徒が作成した課題の一例

3. その後の活動例

授業でSDGsについて学んだあと、さらに生徒が自分のこととして世界の課題を考える機会を設けるために、筆者は次のような取り組みを行っている。

(1)講話

SDGsの目標達成のためにできることと言われても、すぐに考えることは難しいだろう。そこで、実際に課題に取り組んでいる方を講師として招き、その活動について講話やワークショップを行った。

表1 2017年6月に実施した講話

	テーマ	講師
1	ベトナムへの水道事業支援	横浜市水道局
2	食品ロス問題について	横浜市資源循環局
3	東南アジアの廃棄物処理事業	〃
4	途上国の水・衛生問題	NPO法人 WaterAid

※授業時間の都合により、40名を10名ずつのグループに分け、四つの講座に各グループを配置し、1時間で実施した。次の授業でそれぞれの生徒が講座で学んだことを共有した。

(2)夏休みの課題

SDGsに基づいて、ある課題について調査し、その課題に対する解決策を提案するという宿題(Word・A4 3枚以上)を課した。その際、できれば自分が考えたことについて実験したり、関連施設等への訪問やインタビューをしたりすることを奨めた。また、夏休み前に研究計画書を提出させること

により、レポート作成の見通しを持たせ、内容や方法について相談しやすいようにした。

(3)プレゼンテーション(2時間)

提出した夏休みの課題をもとに、1人5分でプレゼンテーションを行う。10名ずつの4グループに分け、4会場で行う。

(4)実践や各種コンクール等への参加の推進

生徒が社会貢献について考えたことを校内の授業や宿題だけで終わらせるのは惜しいので、実際に継続して取り組むことや、校外で行われるコンクール等へ応募することを奨めている。

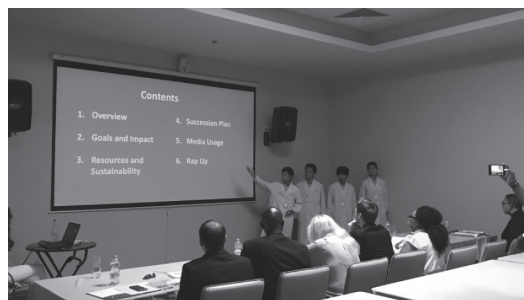


図3 SAGE WORLD CUP日本代表のプレゼンテーション(2017年8月 ウクライナ・オデッサ市)

※SAGEは、高校生が大学生や企業人と協力して社会貢献事業を考案・実践し、プレゼンテーションを行う大会である。

4. 終わりに

例えば、水が豊かな国に暮らす私たちは、アフリカの水問題について身近に考えることは難しい。「途上国について考えよう」と言っても、高校生にとっては遠い世界のことで、机上の勉強に過ぎないという批判もあった。しかし、まずは一緒に知ろう、考えよう、取り組もうと呼びかけることは、社会科教員の責務であると考えている。世界の課題に対していかに取り組むか？ 自分が教員としてできることは何か？ ということは今後も問い続けていきたい。

- 1)MDGsの目標と主なターゲットは、外務省ホームページより引用した。
- 2)ロゴと各々の達成状況を組み合わせた資料を作成した。なお、MDGsの達成状況は外務省ホームページを参照。ロゴは国連広報センターホームページのものを使用した。